

# 腰椎不安定症に対するセミフレキシブル 半硬性コルセットについて

増田 和人 (増田医院)

橘 秀一 山口 吉彦 (葵義肢製作所)

## 【症例】

55歳 男性

診断名：L4/5 腰椎不安定症、L5/S1 変形性腰椎症

数年前から腰痛を認めていたが、突然腰痛が増強した

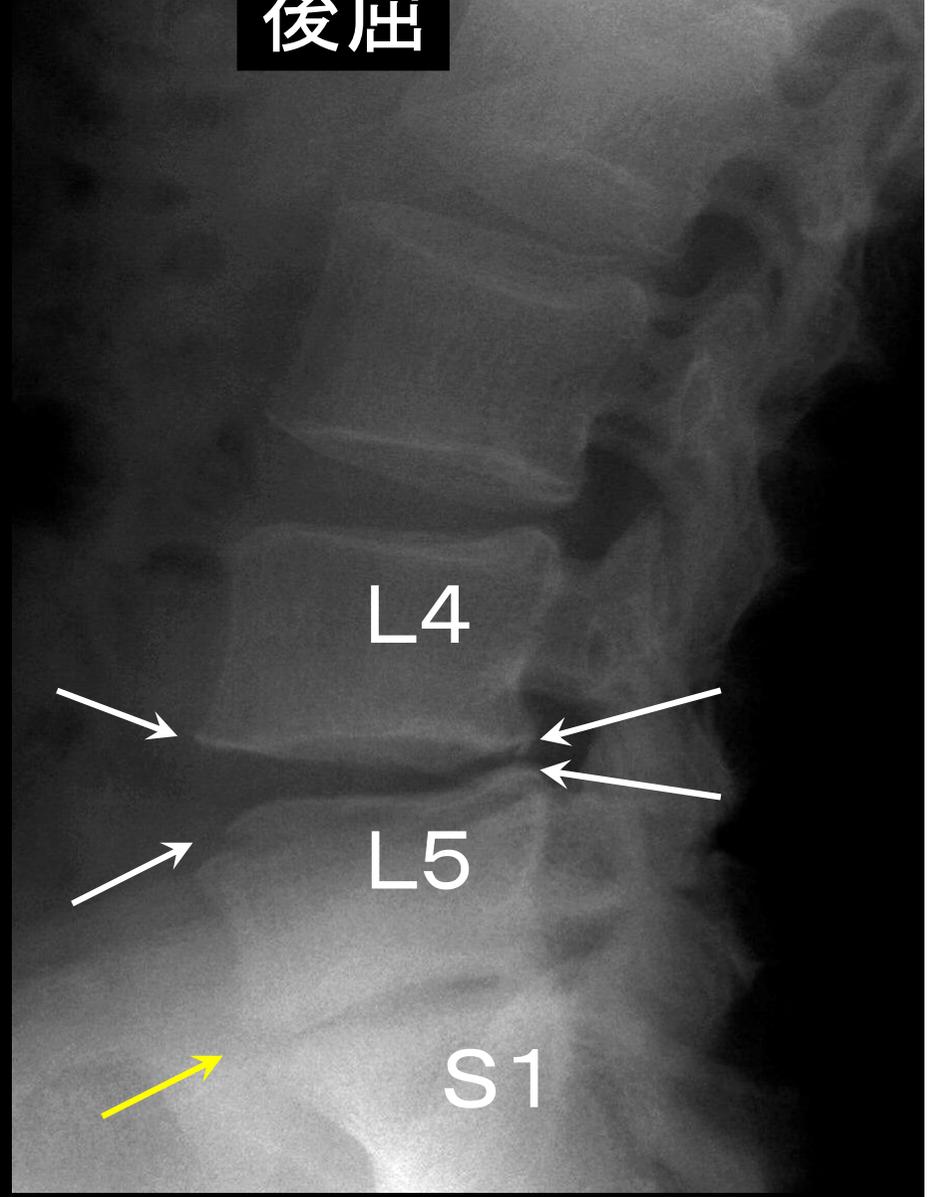
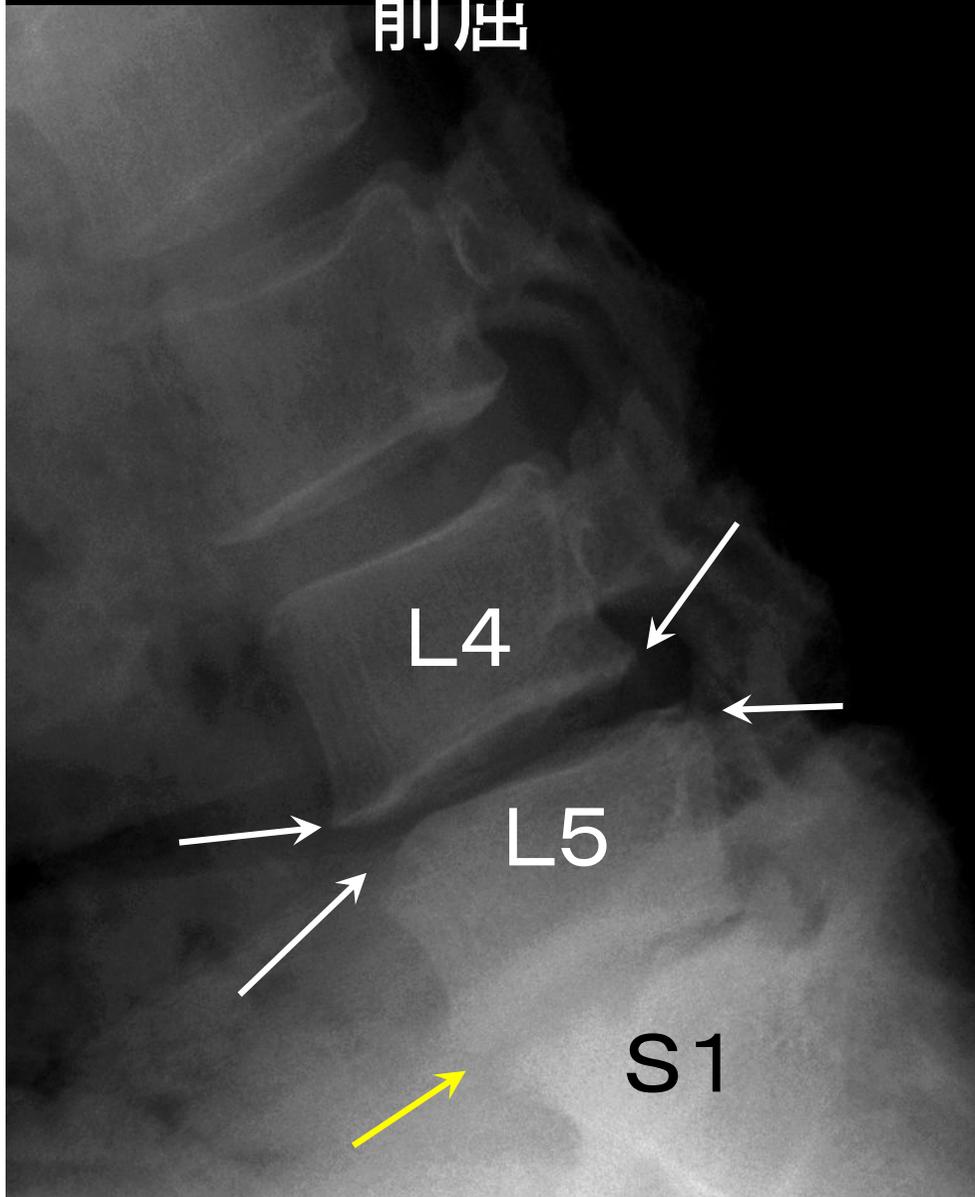
安静時では腰痛の軽減を認めるが、動作時の腰痛は持続し  
保存的治療を続け、ダーメンコルセットを着用するも、動作時  
の腰痛は軽減しなかった

その為、厚さ1.5mmの軟性ポリプロピレンを使用したセミ  
フレキシブル半硬性コルセットを作成し装着した所、動作時  
の腰痛が軽減した

# 腰椎X線

前屈

後屈

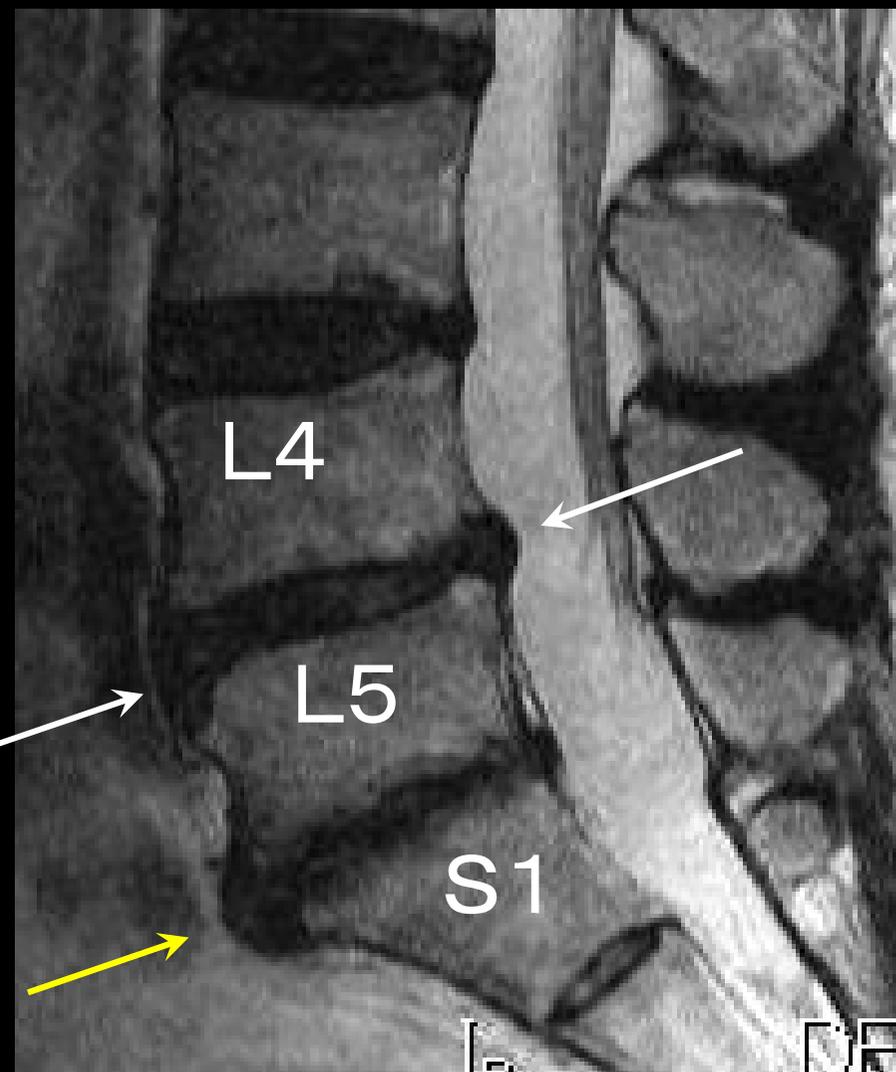
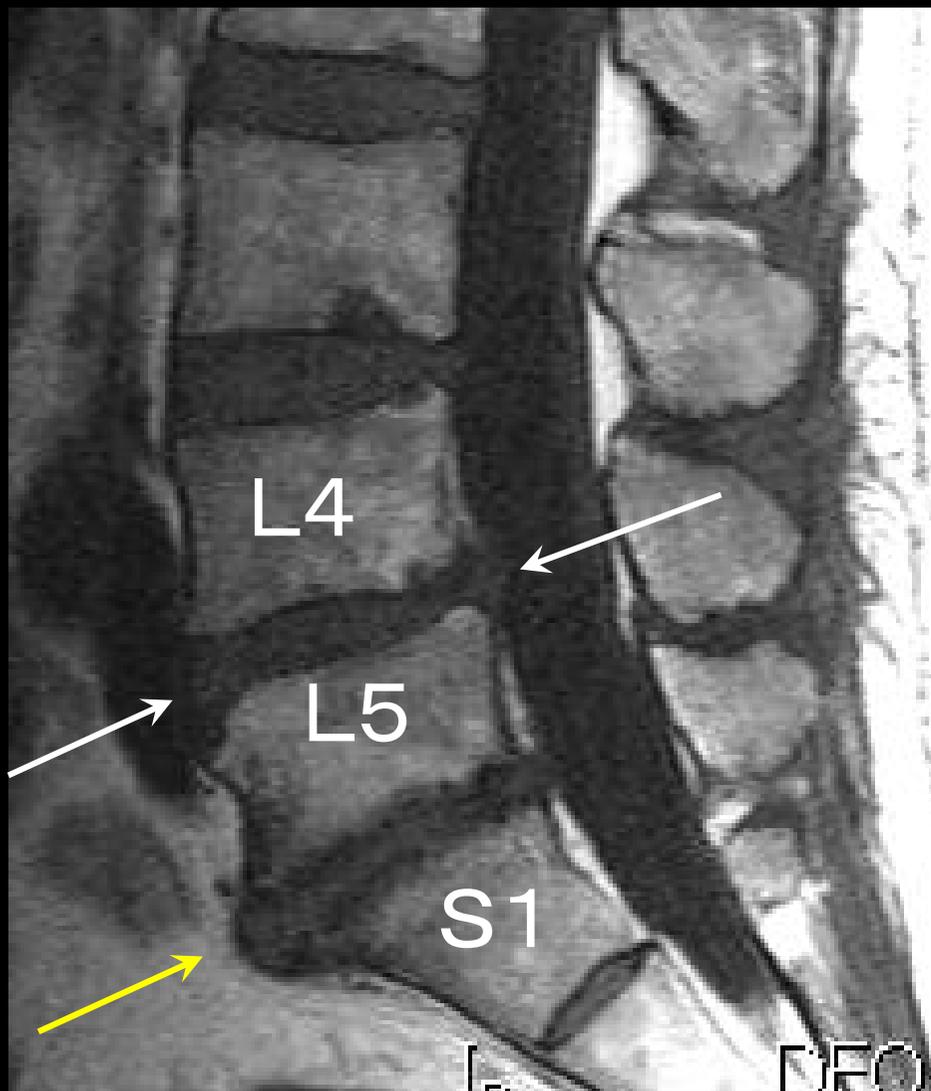


発症時

T1

MRI

T2



発症時

表 1 変形性脊椎症の分類と症状 (Kirkaldy-Willis ら<sup>2)</sup> の分類に基づいて)

第Ⅰ期 (機能異常期)

「単純X線」 正常

「症 状」 軽度の腰部局所の圧痛, 腰部筋スパズム, 腰部伸展位での疼痛

「治 療」 物理療法, 運動療法, ADL 指導, 薬物療法

第Ⅱ期 (不安定期): 変形性腰椎症の過程

「単純X線」 変性著明

「症 状」 主に腰痛

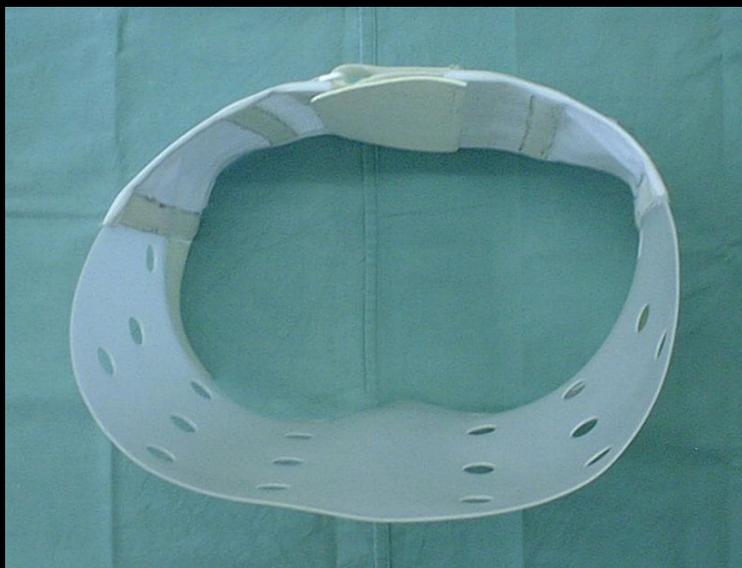
「治 療」 物理療法, 運動療法, ADL 指導, 装具療法, 脊椎固定術

第Ⅲ期 (安定期): 変形性腰椎症の過程

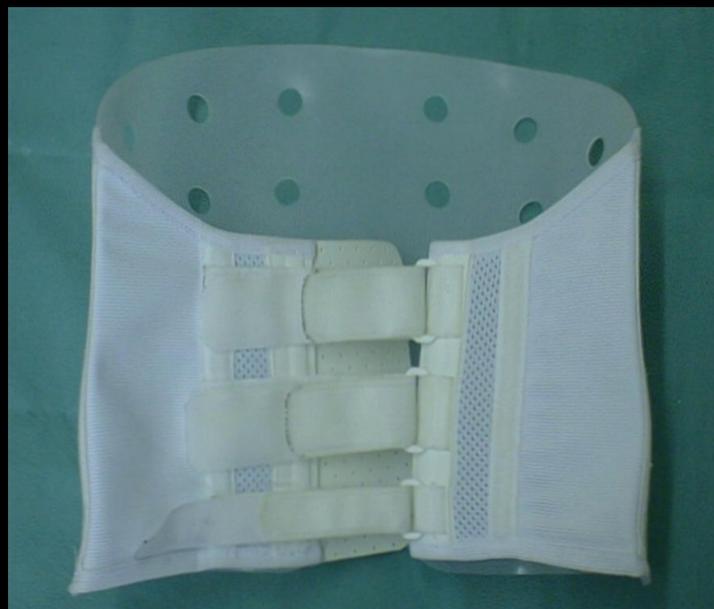
「単純X線」 椎体辺縁, 椎間関節の骨棘による運動複合体の安定化

「症 状」 軽度腰痛, 根性坐骨神経痛, 感覚障害, 運動障害, 間欠性跛行, 排尿障害

「治 療」 物理療法, 運動療法, ADL 指導, 装具療法, 神経根や馬尾神経叢などの徐圧術



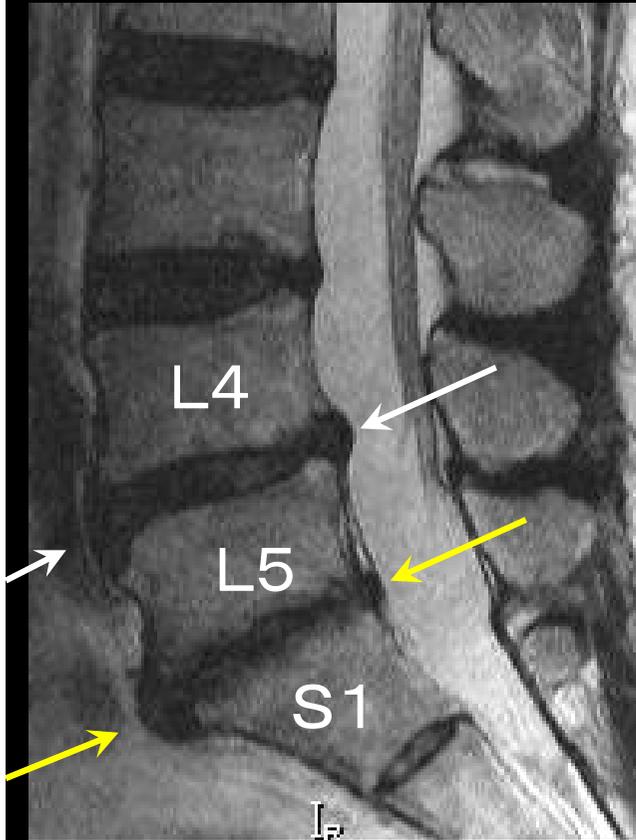
## セミフレキシブル半硬性コルセット



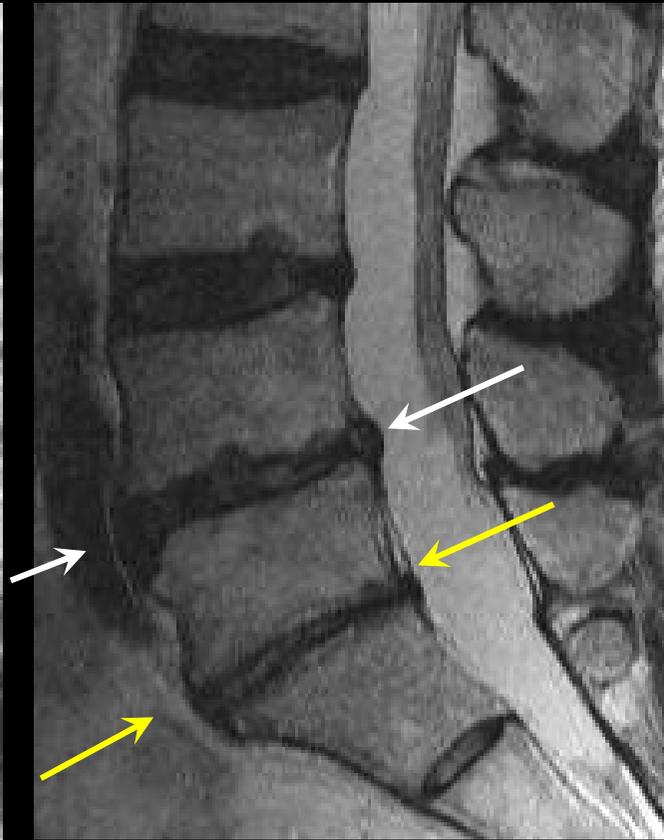




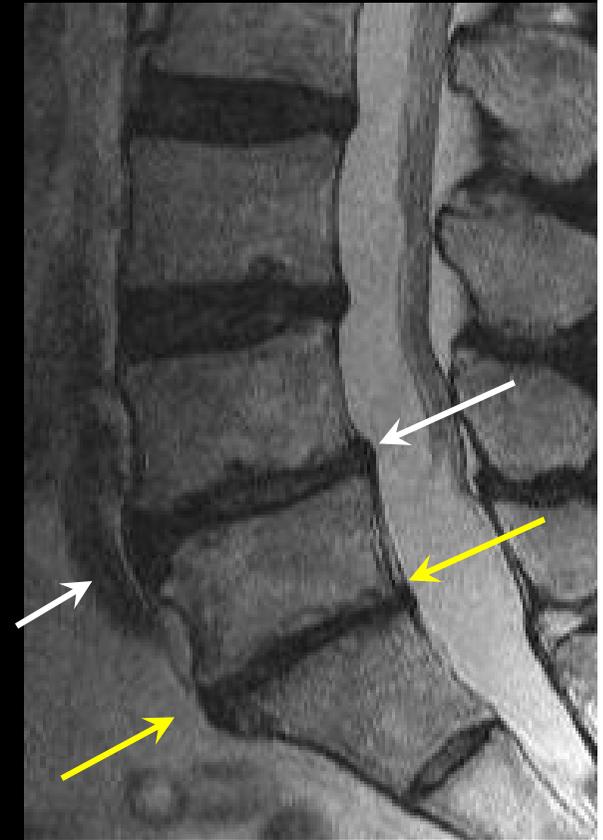
# 腰椎MRI



発症時



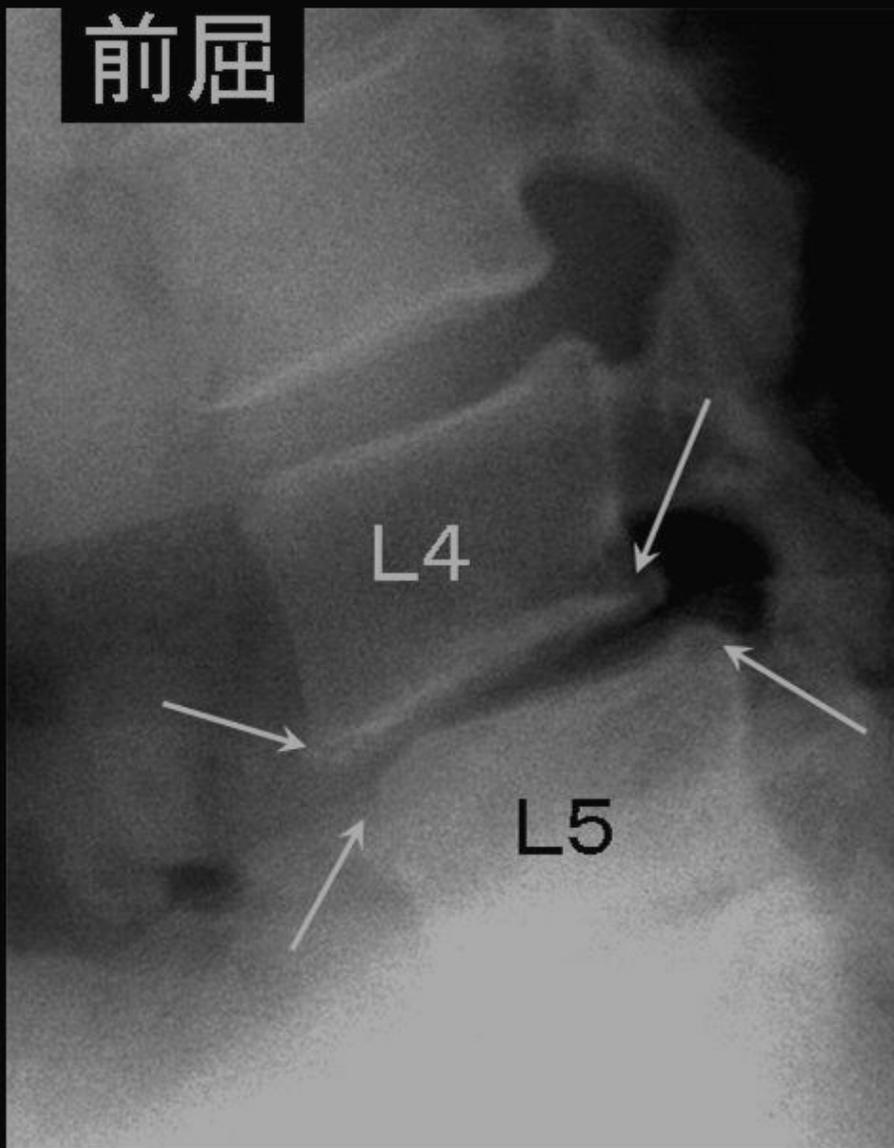
1年後



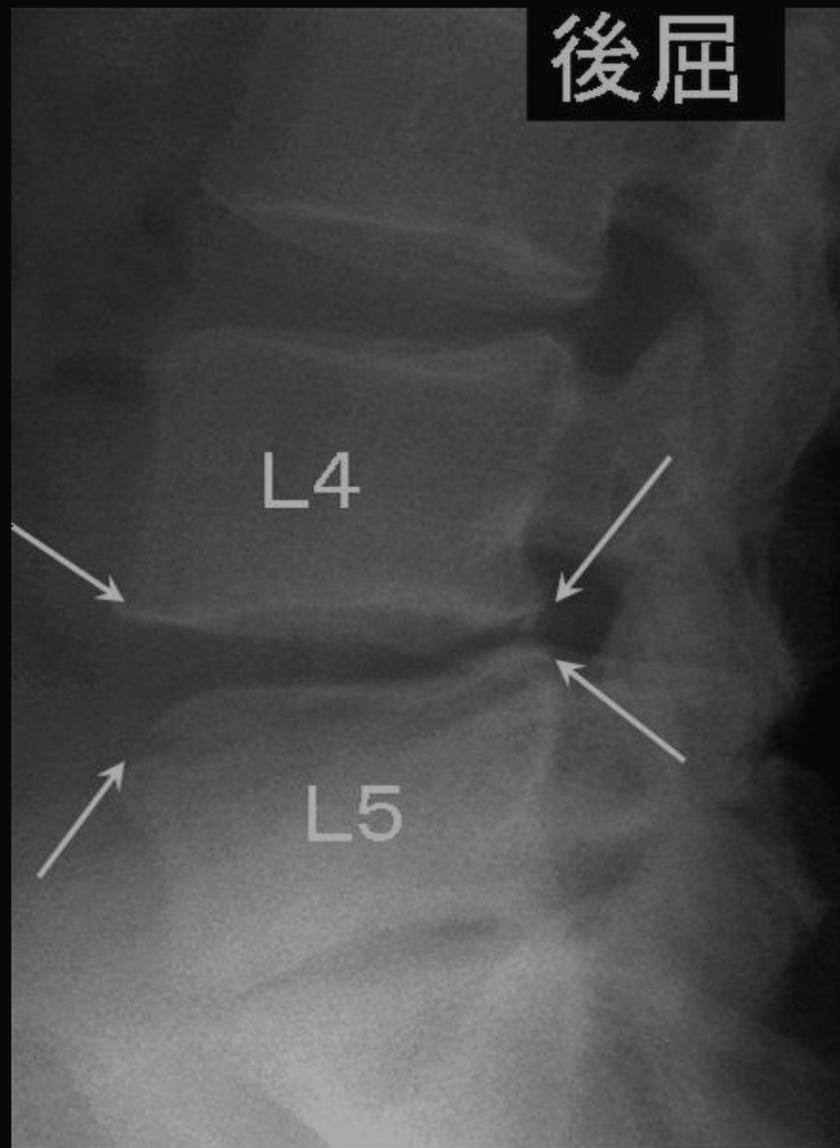
2年後

# 腰椎X線

前屈



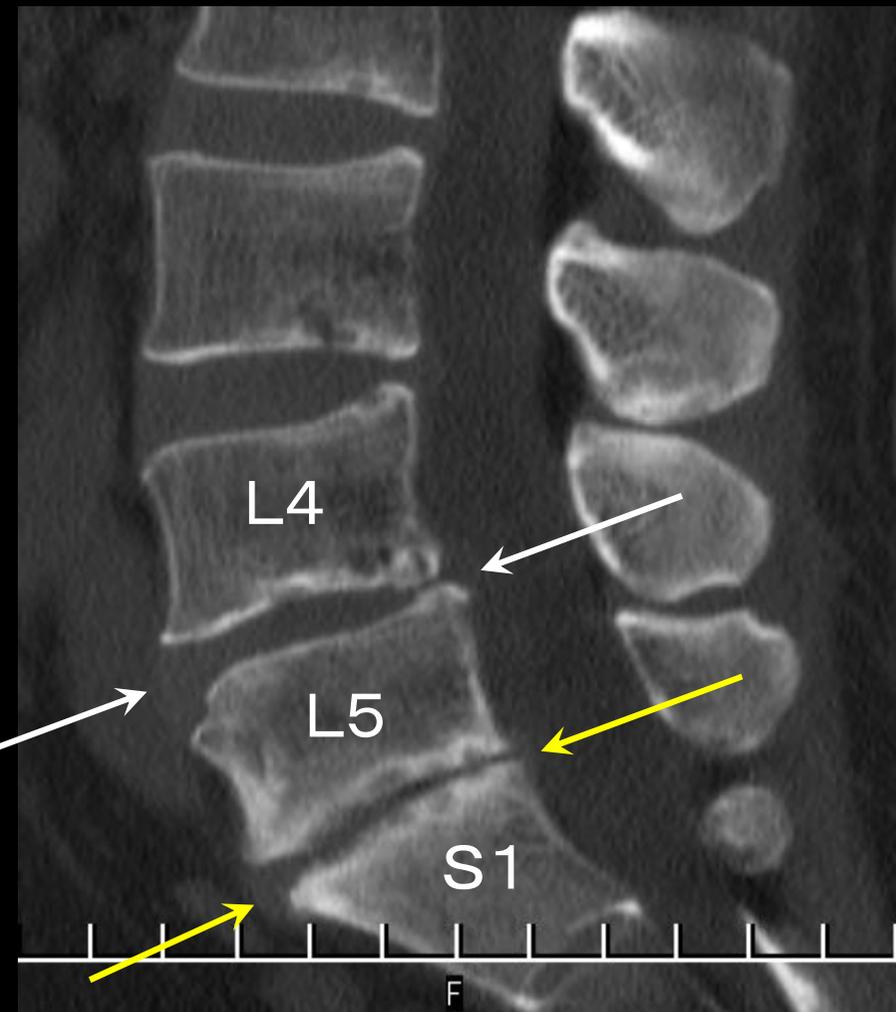
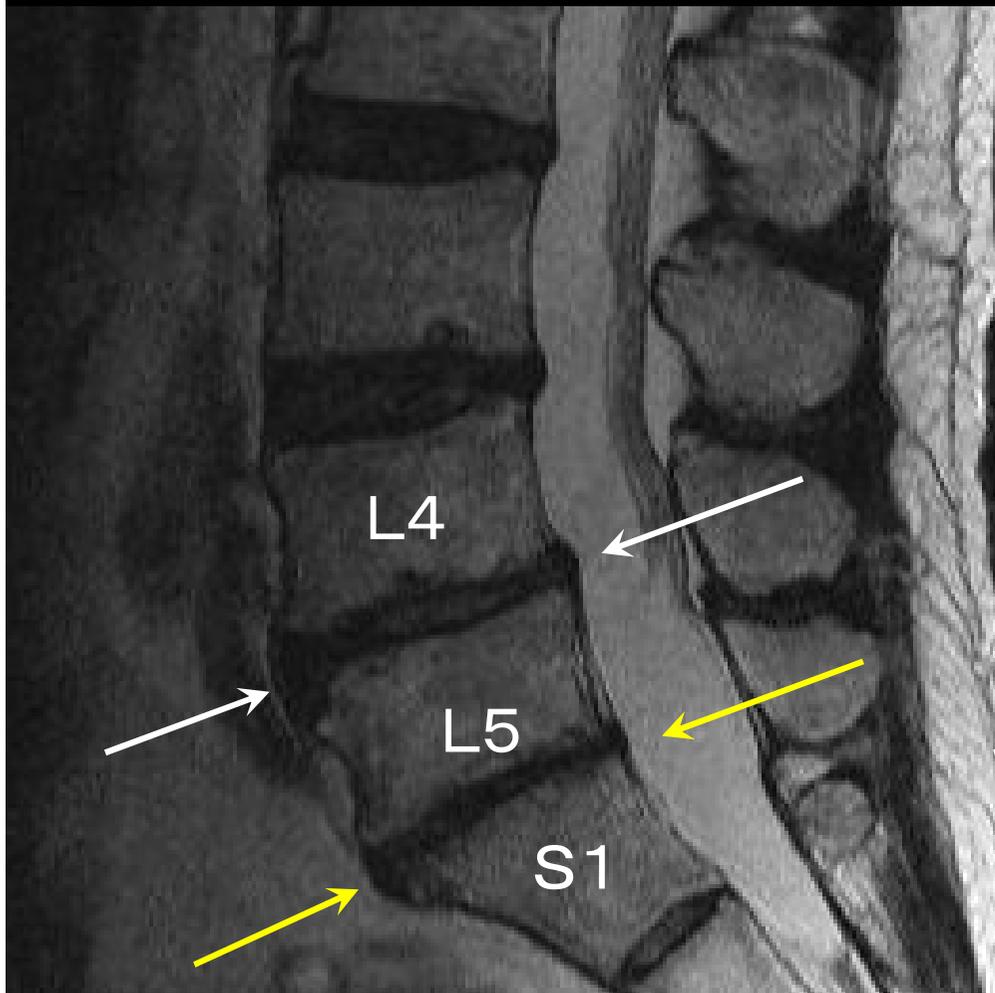
後屈



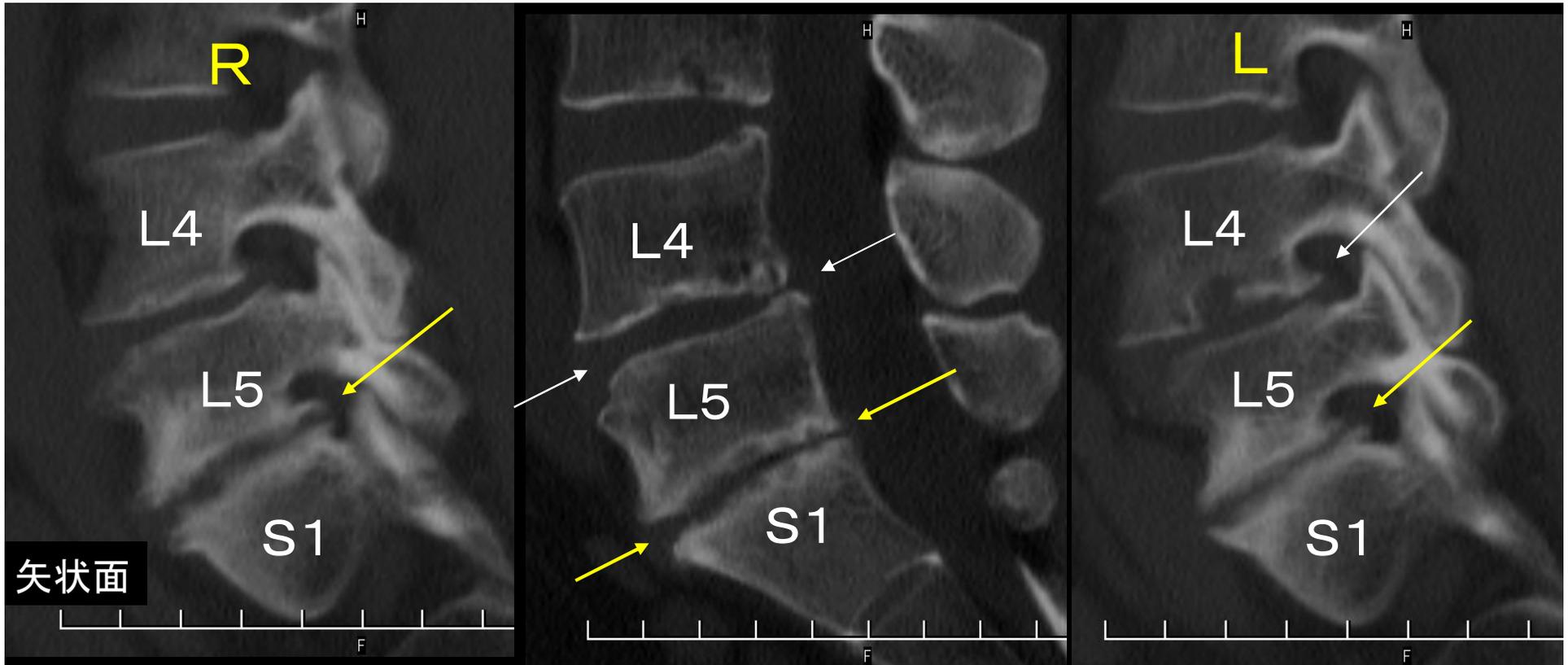
2年後

# 腰椎MRI

# 腰椎CT

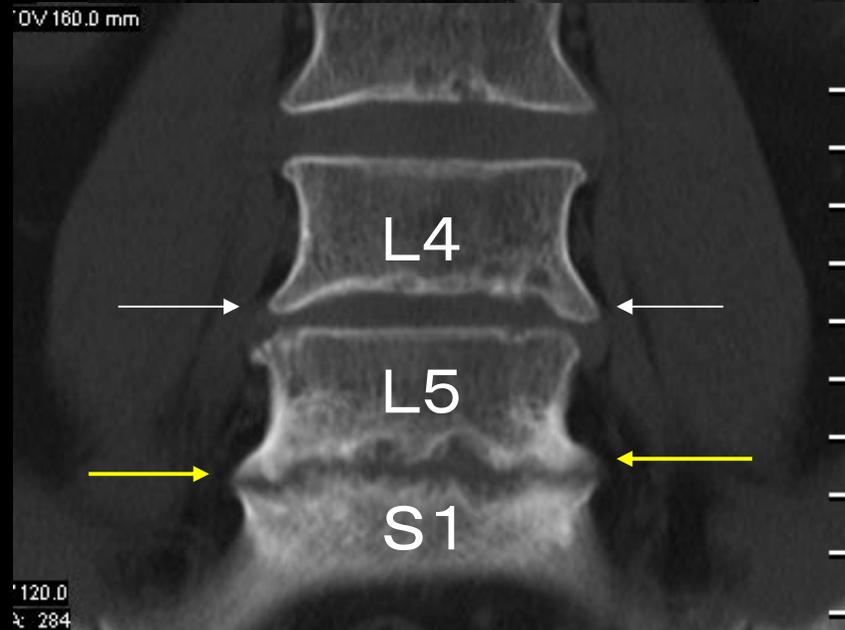


2年後

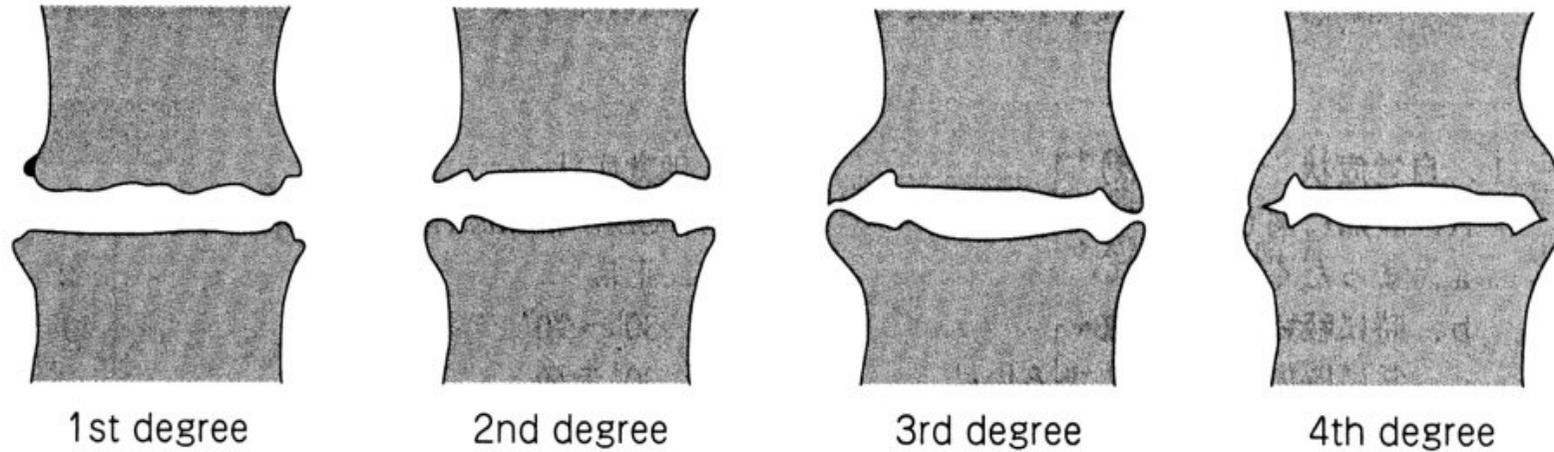


# CT腰椎

前額面



# 2年後



- 1度(1st degree) : 骨増殖症の始まりの孤在性の点としてのみみられる.
- 2度(2nd degree) : 椎体から多かれ少なかれ水平に飛び出した骨突出.
- 3度(3rd degree) : 特徴的な鳥の嘴形をしている. 先端は椎間板にそって弯曲していて, しばしば隣接椎体の骨棘と近接する.
- 4度(4th degree) : 両隣接椎体の骨棘が互いに癒合し, 椎間板を挟んで骨橋を形成し, 両椎体を固定したもの.

図 1 脊椎症性変化の X 線分類

## まとめ

- 1、腰椎不安定症に対し、セミフレキシブル半硬性コルセットを作成し装着した所、動作時の腰痛が軽減した
- 2、装着して2年が経過しているが、腰椎不安定症は変わらず存在してるために、コルセットの装着を続けている
- 3、セミフレキシブル半硬性コルセットは厚さ1.5mmのポリプロピレンを使用している
- 4、コルセットの利点は軽量で装着性が良いので長期間の装着が可能である
- 5、欠点は夏などの高温多湿の状況では装着感が悪い
- 6、長期間のコルセットの装着が腰部に及ぼす影響は今後の検討課題である